

交通局職員提言

「25年後の地下鉄」



平成23年8月

交通局職員提言チーム

目次

| | |
|----------------|--------|
| 1. 25年後の地下鉄像 | ・・・ 1 |
| 2. 提言 | |
| ① 未来につながる地下鉄 | ・・・ 2 |
| ② 自然環境と共生する地下鉄 | ・・・ 4 |
| ③ 人にやさしい地下鉄 | ・・・ 6 |
| ④ 楽しい地下鉄 | ・・・ 8 |
| 3. おわりに | ・・・ 10 |
| 交通局職員提言チームメンバー | ・・・ 11 |

1. 25年後の地下鉄像

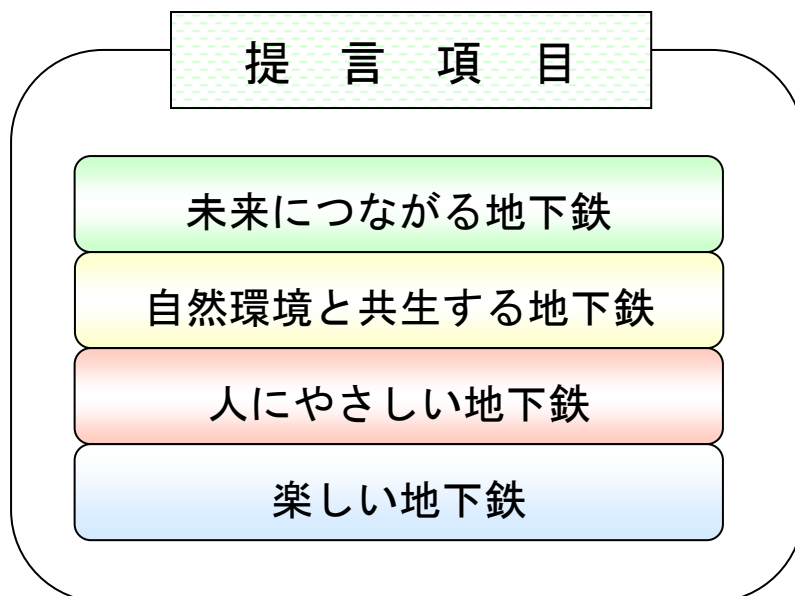
福岡市地下鉄は、昭和56年7月26日に室見～天神間5.8キロを開業して以来、順次、延伸・開業を重ね、現在では空港線、箱崎線、七隈線の3路線合計で29.8キロ、1日に34万人以上のお客様を輸送する公共交通機関として、市民生活、都市活動に不可欠な都市基盤施設となっており、これまでも福岡市の発展に大きく貢献してきた。

現在の福岡は都市基盤が整備されつつも豊かな自然が残り、アジアとの交流も活発でとても暮らしやすい都市であるが、25年後は人口の減少や高齢者割合の増加が予想されるとともに、さらなる環境への配慮など、様々な課題に対応していく必要があると考える。

今年度開業30周年を迎え、新たな出発点に立った今、地下鉄についても、福岡都市圏の基幹交通網の要として、これから迎える時代にふさわしい公共交通機関であるために、安全・安心、快適・便利なサービスを追求していくとともに、さらなる利用促進に努めていく必要があると考え、我々は25年後の地下鉄像を

「人と環境にやさしく、都市に活力を与え、お客様に愛される地下鉄」

とし、その実現を図るため以下の4項目を提言する。



2. 提 言

①未来につながる地下鉄

地下鉄は、二酸化炭素の排出量が少なく環境にやさしい乗り物であるほか、大量輸送が可能であり、また、路面交通に負荷を与えない、定時性にも優れた乗り物であるなど、福岡都市圏の基幹交通網の要として、市民生活や都市活動に欠くことのできない公共交通機関であるが、建設費が非常に大きいことから、地下鉄の建設、運営にあたっては、採算性の確保に十分留意する必要がある。

現在、地下鉄七隈線延伸計画(天神南～博多駅)の実現に向け、取組を進めているところであるが、これからの地下鉄については、事業採算性等を十分勘案しながら、必要な路線について早期実現を図っていくとともに、既設の地下鉄を最大限活用していくことが重要であると考えます。

1. 地下鉄七隈線の延伸(天神南～博多駅)

地下鉄七隈線については、平成17年2月の開業以降、毎年、利用者数は増加しているが、都心部のネットワークが不十分であることから、その機能を十分に果たすまでには至っていない。

そのため本市では、今年度より、地下鉄七隈線延伸計画(天神南～博多駅、建設キロ 約 1.4km)について、事業化に向けた取組を開始したところであるが、当該延伸は、市民や経済界等からも強く望まれており、早期実現を目指し、着実に取組を進めていく必要があると考えます。

延伸によって天神南と博多駅を結節し、鉄道ネットワークを強化することで、都心部の交通渋滞など全市的な交通課題に対応するとともに、回遊性・利便性の向上により、福岡という都市の魅力を高めることにつながり、都心部の発展のみならず九州・アジアをはじめ国内外との交流の拡大にも寄与すると期待される。



2. 既設の地下鉄の活用

これからの地下鉄を考えるにあたっては、ただ新しいものを作るだけではなく、既存のストックを最大限活用し、さらなる利用促進を図っていくことを考えていく必要がある。

これから迎える高齢化社会への対応、低炭素社会の実現に向けた取組の推進等の観点から、さらなるバリアフリー化や省エネ化を図るなど、先進技術の活用等により時代に即したサービスを提供し、既設の地下鉄の利用促進を進めていくことが必要であると考えます。

また、自家用車からの転換等により地下鉄利用者が増えることで、社会全体として二酸化炭素排出量の抑制が図られるとともに、増収によって経営が改善することにより、利便性向上のための投資や運賃の割引なども可能になってくると考えられることから、ソフト的な観点からも、戦略的な PR の実施や利用促進策に取り組んでいく必要があると考えます。

本市が、「人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市」を標榜し、低炭素社会や「ユニバーサルシティ福岡」の実現を目指していく中で、地下鉄は、単なる移動手段にとどまらない、「人」と「環境」と「都市」の調和を図るための重要なツールであると考えます。

人にも環境にもやさしい地下鉄は、「未来につながる乗り物」であり、今後とも、関係局や他事業者等と協力しながら、まちづくりや総合交通体系の確立に向け連携を強化し、福岡という街とともに、成長をつづけていくことが重要であると考えます。

②自然環境と共生する地下鉄

自然環境は大気、水、土壌及び生物などのバランスの上に成り立っており、生活に欠かすことのできないものであるが、二酸化炭素排出量の増加などによる地球温暖化が世界的に深刻な問題となり、このまま温暖化が進行すると、人間をはじめとする生物に大きな影響を及ぼすことが予想されている。

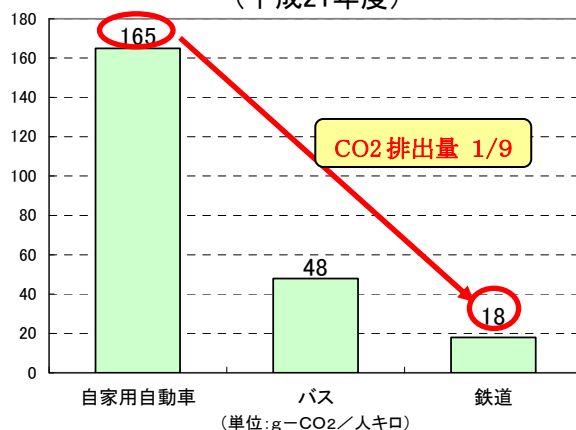
私たちの地球を美しいまま後世に残すためには、地球温暖化への対応が不可欠であり、交通局としても、低炭素社会の実現に向けた取組を展開していくことが必要であると考える。

鉄道は1人を運ぶ時に排出する二酸化炭素の量が、自家用車の約1/9、消費するエネルギーは約1/6であるなど、非常に環境にやさしい乗り物である。

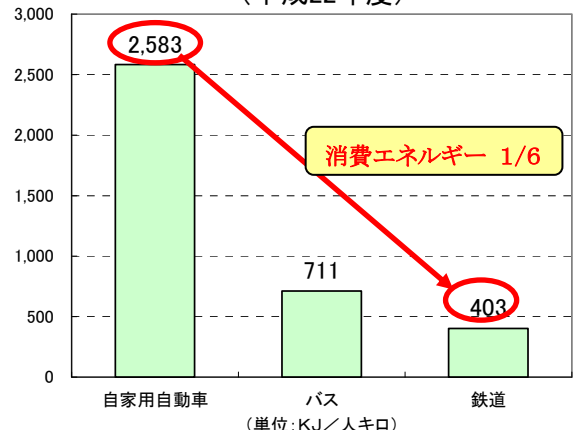
福岡市に地下鉄があることで、二酸化炭素排出量が1年あたり約5万2千トン抑制されており、これは、森林換算すると約8千ha(大濠公園200個)に相当する。

地下鉄が、環境にやさしい乗り物であることを認識してもらい、自家用車から地下鉄への移動手段の転換を促すとともに、さらなるエネルギー使用の効率化に取り組むことで、排出される二酸化炭素量の削減を図っていくことが重要であると考えている。

1人を1km運ぶのに排出するCO₂量
(平成21年度)



1人を1km運ぶのに消費するエネルギー量
(平成22年度)



「国土交通省ホームページ」「国土交通省交通関連統計資料集」より

1. 自然エネルギーの活用

例えば、列車風・換気風を利用した風力発電や交通局関連設備への太陽光発電の導入、ブレーキをかけた際に生み出される電気エネルギーを活用する回生ブレーキのさらなる効率化など、二酸化炭素排出量の少ない、自然エネルギー等の活用について検討を進める必要があると考える。

【橋本車両工場の太陽発電システム】

50kW の発電能力を持ち、一般家庭の約 13 戸分に相当する電力を車両基地に供給することができる。



【回生ブレーキ】

ブレーキをかけたときに発生したエネルギーを電力に変え、他車両の運行や駅施設などに利用。



2. 消費エネルギーの削減

低燃費車両の導入、LED照明や高効率空調機の採用など消費エネルギーの低減を図るとともに、駅設備の電力制御システムを導入し、駅全体の電力供給を最適化するエネルギーマネジメントに取り組むなど、先進的な技術を率先して導入していくことで、地下鉄がさらに環境にやさしくなるための取組が必要であると考えます。

3. 自家用車からの転換

移動手段を自家用車から地下鉄へ転換することで、地球温暖化防止に貢献できることを積極的に発信していくために、導入技術の紹介やイベント等を絡めるなど、戦略的なPRに努めていくとともに、利便性の向上を図るなど地下鉄の魅力を高めるための創意工夫を継続的に実施していく必要があると考える。

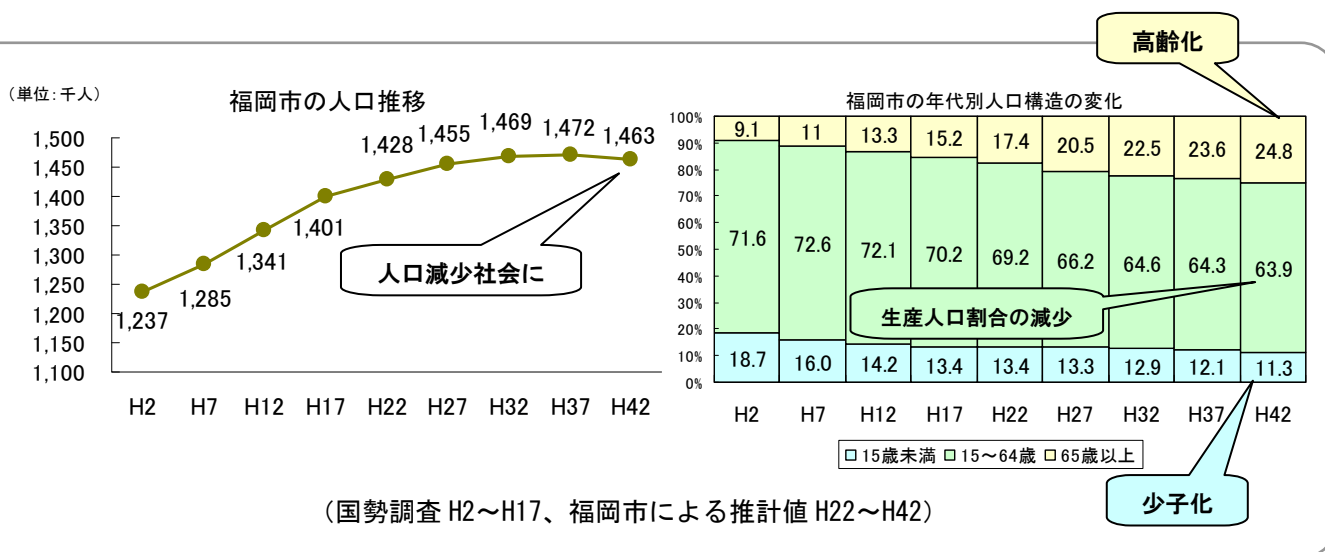
交通局では、これまでもエネルギー使用の効率化や資源の有効活用を目指して取組を進めてきたが、25年後の地下鉄を考えると、公共交通事業者としてできる低炭素社会の実現に向けた取組をさらに進めていく必要があると考える。

今後とも、「自然環境と共生する地下鉄」をコンセプトに、自家用車から地下鉄へ転換したいと考えていただけるような、魅力ある地下鉄を目指していきたい。

③人にやさしい地下鉄

全国的に少子高齢化が進展する中、福岡市においても、65歳以上の高齢者の割合が増加し、将来的には人口減少が見込まれているところであり、社会福祉の充実、生産年齢人口の減少によるマンパワー減少への対応などが今後必要となっていくと考えられる。

地下鉄についても、これらの状況の変化に対応していく必要があり、社会情勢が大きく変化していく中、人の暮らしに密着し、これを支え、人が豊かで幸せに生きていくための「人にやさしい」ツールとして、在り続けていくことが必要と考える。



1. すべての人が使いやすく分かりやすい地下鉄

地下鉄駅の更なるバリアフリー化、センシング技術を導入した誘導路などの体感式誘導システムや多国籍言語による音声誘導等を充実させるなど、すべての人に優しいまち「ユニバーサルシティ福岡」の一端を担う地下鉄を目指す。

2. 便利で生活に密着した地下鉄

全てのお客様に便利に地下鉄を利用していただくため、例えば駅構内に、生活する上で便利な各種ストア等のアメニティ施設や、子育て環境の充実という観点から保育所・託児所を誘致するなど、お客さまのニーズを反映した便利で生活に密着した地下鉄を目指す。

3. 心が癒されるあたたかい地下鉄

25年後は更なる技術革新により、自動化・無人化が促進されていると考える。そのような時代の変化に柔軟に対応し、運行・駅務・メンテナンス等の自動化できる部分は積極的に効率化を図ることで、健全な経営状態を目指していく必要がある。

しかしながら、人と人とのコミュニケーションを必要とする場所では、お客様にまた利用したいと思っていただけるような、より質の高い接客を目指していくとともに、多言語オートインフォメーションを設置するなど、国内のみならず、海外からのお客様にも安心してご利用いただけるような、心が癒されるあたたかい地下鉄を目指す。

これまでも、高齢者や障がい者、国内外からの観光客など、あらゆる方に分かりやすく、円滑に移動できる公共交通機関を目指して、駅ナンバリングやホームページの充実等による情報提供の強化、各駅へのエレベーターの設置、駅トイレのバリアフリー化などに取り組んできたが、今後とも、少子高齢化の進展や国際交流のさらなる活性化などによる社会情勢の変化に適時適切に対応しながら、快適・便利で心癒される地下鉄を目指し、様々な取組を進めていく必要があると考える。

【駅ナンバリング】

外国からのお客様や初めて地下鉄をご利用されるお客様が、目的駅や乗換駅などを容易に確認でき、より安心してご乗車いただけるように平成23年より駅ナンバリングを導入。



【多機能トイレ】

身体の不自由な方や小さなお子さま連れの方などすべての人が無理なく動けるスペースや機能を備えた「多機能トイレ」を全駅に設置。



④楽しい地下鉄

地下鉄は、現在通勤・通学の方を中心に1日に34万人以上の方々にご利用いただき、市民生活になくてはならない交通機関となっているが、通勤・通学の時間帯以外や、土・日・祝日などにも、もっと地下鉄に親しみ、楽しんでいただき、より多くの皆様にご利用いただくための施策が必要と考える。

1. 企画列車の運行

通勤・通学など普段の生活の中で地下鉄を利用することが少ない方にも、楽しんで利用してもらえるよう、企画列車の運行を検討する必要があると考える。

具体的には、夏の「ビアトレイン」、少子高齢化や晩婚化に歯止めを掛けるきっかけになるような「婚活列車」、人気アニメのキャラクターを車体にプリントした「ラッピング列車」を運行することで、楽しみを感じていただきながら、新たな利用者の開拓につながると考える。



【ラッピング列車イメージ】

2. 駅の個性化

現在においても、コンビニエンスストアやコーヒーショップ等が設置されている駅もあるが、駅の形や駅構内で流す音楽を工夫する、あるいは駅カフェ等の店舗を充実させる等、それぞれの駅に個性を持たせることによって、駅に行くこと自体が楽しくなり、地域の方にも愛される駅を目指す。

3. 地下鉄主催のイベントの開催

地下鉄沿線のグラウンド等を利用したスポーツ大会（「福岡市地下鉄杯 野球大会」等）や沿線をめぐるウォークラリー、地下鉄全線を利用した宝探しイベントのような、普段地下鉄を利用されない方や他都市の方にも参加いただけるようなイベントの開催や、地下鉄について学んだり、遊んだりできるような場を設置するなど、より地下鉄に親しんでいただくとともに地下鉄を広くPRする施策が必要であると考えます。

4. ICカード「はやかけん」の活用

ICカード機能を活用し、抽選で当選された方や環境や健康増進に対する貢献をされた方にボーナスポイントを付与するなど「お楽しみ」を実施することで、「はやかけん」が、単なる地下鉄乗車券に留まらない「市民カード」として定着していき、地下鉄をPRする重要なツールとなっていくと考える。



【ICカード「はやかけん」】

地下鉄は、定時性が高く、市民生活、都市活動に不可欠な交通手段となっているが、「お楽しみ」を加えることで、今よりももっと親しみを持っていただくとともに、地域に密着した、皆様に愛される交通機関を目指して、今後さらに利用促進につなげていきたいと考える。

3. おわりに

今年度は地下鉄開業 30 周年の記念の年であるとともに、地下鉄七隈線延伸計画(天神南～博多駅、建設キロ:約 1.4 キロ)の事業化に向けて取組を開始した大きな節目の年である。

このような中、改めて地下鉄が果たすべき役割について考え、25 年後の地下鉄がどうあるべきかを交通局職員で話し合うことができたのは貴重な経験となった。

「人と環境にやさしく、都市に活力を与え、お客様に愛される地下鉄」

本提言に掲げた 25 年後の地下鉄像を実現していくためには、その前提として、安全・安心を最優先に、快適・便利な高速輸送サービスを安定的に供給していくことが必要であり、技術の進歩や時代のニーズに合わせて、さらなる安全・安心を追求していくとともに、経営の健全化に努め、長期的に安定した経営を実践していく必要がある。

これまでの 30 年間と同様に、引き続き、日々の安全運行と経営の健全化に努めながら、25 年後の地下鉄像の実現を目指して、職員一人一人が「25 年後」を描きつつ、一歩ずつ歩みを進めていきたい。



交通局職員提言チームメンバー

池 本 政 博

岩 佐 進 士

円 能 寺 誠

大 池 博

大 神 紹 載

緒 方 利 彦

小 野 裕 介

下 田 大 豪

高 見 努

泊 孝 大

花 本 年 雄

松 尾 俊 雄

(計 12名 五十音順)